

---

# 銅田一少年の事件簿

永久 歩

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

銅田一少年の事件簿

### 【Nコード】

N5059A

### 【作者名】

永久 歩

### 【あらすじ】

ただの馬鹿パロディって感じです。何も考えずに書きました。金田一好きな人はご遠慮ください。

私、みゆきと幼馴染のはじめちゃんは叔父のペンションに泊まりに来ていました。

そのときはまさか、そんな悲劇が起きるなんて、夢にも思わなかったのです。

あれは、午後7時ごろのことでした。

私とはじめちゃん、そしてペンションの宿泊客のみんなで夕飯を食べていた時のことです。

「キヤアアアアアアアアア！！」

女性の叫び声。

その場は騒然となりました。

「な、なんだなんだ！！」

「オーナー！ 大変です！！！」

「どうしたんだ！ 恵理子くん！！！」

「201号室の田中さんが来ないので呼びにいったんですが、た、田中さんが……死んでいたんです！！！」

「マジで!？」

ざわ・・・ざわ・・・

「床に、こんな、遺書らしきものが残っていたんですが……」

許されないことをしてしまいました。

みなさんには、とてもご迷惑をかけてしまいました。

自分でも、何故このようなことをしたのか、全く理解出来ません。

死ぬことしか、私には罪を償う方法が解りませんでした。

許されようと思うのは、いけないことだとは思いますが。

死ぬことは、自分が逃げたかっただけなのかもしれません。

天国に行けることを願って・・・。

「HEY！ オーナー！ コレはドウゆうコトだよウ！」

202号室のエセ外国人、ピエール柿さんもご立腹の様子。

「そうですわ！ そんな殺人が起こるペンションなんて、前代未聞じゃありませんこと！？」

こんな喋りかたするヤツ現実にいねえよ、と思わせる喋りかたの203号室のデヴィ叶さんも息を荒げています。

他の宿泊客の皆さんは、何があったのかわからないとでもいうように、ポカーンと口を開けてただボーっとしています。魚みたいで少し面白い。

「そして、こんな物も残っていました」

恵理子さんが取り出したのは、黒柳徹子のサインでした。

「な、なぜあの有名人のサインが……？」

みんな、もう夕食のことなど頭にありませんでした。

「な、なんか凄いことになってるわね、はじめちゃん」

「……謎はすべて解けた」

「早えなオイ!!」

「みゆき! みんなをここへ集めてくれ!」

「いや、全員揃ってるし」

「じつちゃんの名にかけて!」

「なんでこのタイミングで言うの!?!」

「いいですか? 皆さん。これは非常に巧妙に仕掛けられた計画犯罪です。オレはここまで完全に人間の心理を突いた犯罪を知りません。そして、こういうとき、犯人はこの中にいると相場が決まってるので、きっと犯人はこの中にいるのです」

「オイオイ! 急にナニをイイだしたンダこのボーイ! コイツは笑っちゃうぜH A H A H A!!」

「そうでござあますわよボウヤ。探偵ごっこはひとりで勝手にやっていたらいいぞあますわね」

「すべての答えは、この遺書に隠されていました」

「なんだってええええええ!!」

「いいですか？ この遺書・・・最後の文字を縦に読んでみて下さい。わかりますか？

『たたんたがん』。そう、これは犯人の名前なのです!」

「なんだってええええええ!!」

「そうですね。『タタン・タガン』さん」

「……まさか、私の名前が隠されていたとはな」

「いるのかよっ!!」

「だが、少年。それだけで私を逮捕できるのか？ 私はずっとここにいたんだ。完璧なアリバイってやつだな」

「しかし、証拠があるんですよ。あなたがやったという証拠がね」

「なんだと！ でまかせを言うのもいい加減にしろ!」

「それは、この黒柳さんのサインです」

「!-!」

「まさか、ここまで完璧な殺人があるとはね。ある意味、オレはアントアを尊敬しますよ。あんたはこのサインで（中略）したんです！どうですか！！」

「そ、そんなことが出来るなんて！これを（中略）して使えば完璧な殺人が出来たというのか！」

「さすがはじめちゃん！！」

「あの黒柳のデカ頭にそんな秘密があつたとはな……」

「あ……アイツが……アイツが悪いんだ！！アイツが……アイツが、私の娘を傷つけたから……っ！！」

「お父さん……。わ、私のために、そんな……」

「そうだと思いましたよ」

「何だつて？」

「さつき、娘さんがシャワーを浴びているときに、見つけたんです。胸の中央にある、大きなキズ、をね」

「……少年。ひとつ訊いていいかな。なぜ、私を怪しいと思ったんだ？自分で言うのもなんだが、完璧な犯罪だったと思うんだが」

「それは……あなたの、服、ですよ」

「服……だつて？」



「血まみれですよ」

「……そうか。ハハハ。こいつはすっかりしていたな」

そして、この悲しき事件は幕を閉じました。

すべては はじめちゃんの推理によって。

ちなみにはじめちゃんはこの後のぞきの容疑で逮捕されました。

完

（後書き）

……なんかすいませんでした（笑）。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5059a/>

---

銅田一少年の事件簿

2010年10月17日01時40分発行